

市議会報



大野

No. 16

49. 2. 1
発行 大野市議会
TEL 6-1111
(内線 303)
印刷 松浦印刷所

12月定例会市議会

一般会計補正予算 1億2,310万円を追加

— 8議案を原案可決、1議案を継続審査 —

第142回12月定例会市議会は、12月14日招集され、会期を20日までの7日間と定め、理事者から提出の議案9件を審議いたしました。その結果議案第86号昭和47年度大野市歳入・歳出決算認定については、決算審査特別委員会を設置、委員を別掲のとおり選任し、この委員会に付託して、継続審査とし、他の8議案については原案どおり可決しました。また市民の皆さんから出されました請願・陳情は別掲のとおり決め、最終日には議員提案による「国民生活の安定を要望する決議」「1月2、3日ならびに祝日の郵便配達廃止に関する意見書」を満場一致で決議しました。

一般質問

市民の期待多し振興計画の実施

市制二十周年の大野市政に望む

私立保育所の父兄負担軽減を

明年度予算に要望!!



4月開園を目指す北部保育所

おもな議案

▼昭和48年度大野市一般会計補正予算

今回の補正額は1億2,310万4,000円を追加し、総額27億2,187万8,000円といたしました。補正の主なものは次のとおり
まず人件費が主で、7,430万円を計上。これは職員の給与を国家公務員に準じ、4月1日にさかのぼり引き上げを行うものである。希望園増改築補助77万9,000円。和光園増改築補助71万1,000円、亀山・開成両私立保育所建設補助400万円、北部保育所備品購入費の追加分243万8,000円。単価増による生活保護扶助費954万2,000円。予防接種ワクチン値上による不足分40万円。元農場用地を原形復旧した場合の返還補償金110万円。大規模育苗施設設置事業補助59万5,000円。野菜生産総合改善団地育成事業補助108万4,000円。種子生産合理化対策事業補助106万5,000円。特殊林産物振興補助80万円。宝慶寺公衆便所工事費不足分30万円。円山公園

駐車場整備県工事負担金166万6,000円。市道補修工事費150万円。道路改良に伴う道路敷地購入費254万円。駅東公園設計委託料100万円。

その財源の主なものは

地方交付税7,659万5,000円。国・県支出金4,572万9,000円。寄付金78万円など。

▼大字、字区域の変更について

昭和46年より3カ年にわたり、小山右近次郎下舌土地改良区が実施した下舌地区の圃場整備事業により、一部に大字、字区域の変更の必要が生じたため。

▼大野市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

人事院勧告による国家公務員の給与改定に準じ、一般職の職員の給料表と扶養手当、通勤手当、住民手当及び宿日直手当の額の改定を行うものである。

▼昭和48年度における期末手当の割合等の特例に関する条例

人事院勧告に準じ、昭和49年3月に支給する期末手当の一部を昭和48年12月に繰り上げて支給するものである。

12月定例会審議日程

- 14日 本会議（会期の決定、議案上程、提案理由の説明）
- 15日 休会
- 16日 休会
- 17日 本会議（一般質問、各案件委員会付託）
- 18日 委員会（産業経済、建設常任委員会）
- 19日 委員会（教育民生・総務常任委員会）
- 20日 本会議（各委員長報告、質疑討論、採決）



**公立・私立保育所の均衡ある施策を
個人負担の軽減を望む**

問 現在大野市には公立保育所がへき地保育所（六呂師）を含めて6個所、私立保育所が6個所となり、私立に依存しているところが多いと思われる。福祉事業として公立と私立の間に差があってはならないと考えられるが、これら個人に係る負担が軽減されるよう私立保育所に対して助成を願いたいと思う。福祉を目的とするところの市長の考え方を伺いたい。

答 私立保育所の問題について、建設費の補助は国・県補助の半額程度を基本にしており、措置費についても市において区別なくお世話をしているが、運営費等の補助については十分ではないと考えており、今後検討して明年度の予算において引き上げるよう努力していきたい。退職共済制度についても新しく発足することになっているので、県・市が努力してこれに補助をしていく体制を取っていきたいと考えている。今まで共済制度がないため身分が非常に不安定であったので今後これらを拡充強化して安心して働けるよう努力していきたい。



保育所で遊ぶ子供達

十二月十七日、議案に対する質疑ならびに一般質問が行われ、五名の方々が理事者に質問しました。
この方々の外にも多数の方々が関連質問を行いました。
その主なものは市街地行政、振興計画の問題、阪谷橋の早期着工、市内バスの循環運行に関するものなどでした。
なお、これらの答弁には市長の外関係課長がこれに当たりました。

**調和のとれた市街地行政を……
中小企業対策、駐車場対策
明年3月仮称中小企業振興条例を**

問 市街地行政について過般の議会においても論議されたところであるが、市街地の発展策について具体的な対策もなく予算面においても全く現れていない。やはり調和のとれた市政というものが対策の面でも、予算の面でも打ち出されるよう意欲を示していただきたいと思うのである。また駐車場の問題にしても小規模の駐車場を各商店街に設置していただきたいと念願しているが、これらの点についてどのように考えているのか伺いたい

答 市街地行政については非常に消極的でないかというご批判であるが、先般の議会でも申し上げたように、予算の規模で単純に比較されるものでなく、やはり大野市の最重点事項を決め、均衡ある発展を図っていくのが使命であると考えている。明年3月の定例市議会において仮称中小企業振興条例というものを提案をして、その中で今後の市街地の中小企業対策、あるいは一番問題となっている駐車場問題について十分ご相談をしていきたいと思っている。

**ごみ焼却場の建設位置
は決定したのか？**

問 広域行政事務組合で考えているごみ焼却場の建設位置については、現在地に建設したいとの意向であるが、地元は反対していると聞いている。市としての考え方を伺いたい。

答 ご指摘のごみ焼却場については、いろいろご批判があらうかと思うが、今年の春以来、勝山地区、大野地区の各地の場所を検討してきたが承諾が得られないということから、現在の大野市の焼却場のある所に建設していく方法しかないのではないかということで、現在地元とも交渉している段階である。決してあの場所が適当であるから選択したという訳ではなく、今後広域行政事務組合議会で検討していただき結論を出していきたいと考えている。

**青少年に憩いの場を
「青年の家」誘致に**

問 「青年の家」の誘致については、市は49年度に誘致する可能性ができたと言われたが、果たして県との確約を得て来年度に誘致が実現するのかどうか伺いたい

答 「青年の家」誘致については先般の全員協議会でも申し上げたように、今年の7月「青少年の森」の完成式を行った際、知事からぜひとも奥越に「青年の家」を建設したいということ聞き、私どもこれを信じ、県に対して明年度着工できるよう努力してきたが、県の教育委員会の方では明年度の公共事業の抑制から見通しが立たないため、消極的になっているものと思われる。また一方聞くところによれば「海の家」を子供たちに建てたいという考え方をもっているようである。しかし今後皆さん方とも十分話し合いをして青少年のよりどころとしての「青年の家」を、明年度実現するよう努力していきたい。

決算審査特別委員会

昭和47年度大野市歳入・歳出決算について、慎重に審議するため特別委員会を設置する。委員は次の方々である。 ◎委員長

- ◎広瀬 巳佐雄 茨山 善三
- 北山 作右エ門 平間 源治
- 山 岸 充 石田 善徳

**市内の循環バス運行
政治力を結集して解決を図れ**

問 国道 157号線沿いには県の出先機関をはじめ市の公共施設が多くなり、市民は非常な不便をきたしているが、市の善処するという言葉のみで、いまだその実現をみない。市は今こそ政治力を結集して早急に解決を図るべきと考えるが、その決意を伺いたい。

答 市内バスの運行については、多年議会からもご意見を伺っているところであるが、市としても国鉄バス、大野交通に対して強く申し入れをしている。現在国鉄バスの方をお願いしているのであるが、多くの赤字を抱えていることを理由にして、総距離数を削減こそすれなかなか延ばしてくれないというのが現在の状況である。またもう一つの問題として、過疎地のバス運行廃止と引き替えに市街地のバスの路線を新設をするという考え方をしているのである。しかし過疎地のバス路線を廃止するということが賛成し兼ねるし、さりとて市街地のバス路線を開通して欲しいという苦しいジレンマに陥っているのが実状である。しかし来年の春にはぜひとも実現するよう運動を展開していきたいと考えている。

**阪谷橋の早期着工を
観光開発に重要な役割**

問 阪谷橋の改修については長年要望しているところであり、また観光開発に大きな役割を果たしていることは周知の事実である。そのため地区民は一九二〇年になって期成同盟会をつくり運動を進めているが、市において国・県に対して早期に着工するよう要望すべきと考えるが。

答 阪谷橋の拡幅整備については声を大にして県に申し入れをしている。県においても近年は六呂師のむらの道を拡幅整備し六呂師橋を改修し、さらに手前の橋爪地係に架かる橋を大々的に今建設をやっているという状況である。やはり大野～南六呂師を一貫して考えていく必要がある、ただ単に阪谷橋だけをという考え方ではなくして、全線にわたり改修をしていただくような方向で考えていかなければならないと思う。今後は阪谷橋の方に逐次状況が向いてくるように、また手

前においては七間線を延長して現在中保・中挾を通っている路線を切り替えをしていくことについても、明年度から着工する話もできているので、一日も早く着工されるよう努力していきたい。



またれる阪谷橋の早期改修

**赤根川の抜本的改修
50年度着工の見通しは？**

問 先般の議会でも論議されたが、50年度に確実に河川改修の見通しがついているのか。また基盤整備事業に伴い県営かんがい排水事業が計画され、赤根川に排水される訳であるが、この管理を市が行うべきと考えるが。

答 赤根川の改修については多年の懸案である。県もようやく本年度調査費を予算化し積極的に取り組みたいという意向である。赤根川の抜本改修は、大野市街地を含めた清滝以西の排水が赤根川に集中し、また基盤整備事業に伴い排水が赤根川に流れるということから、部分的な改修のみでは解消される問題でなく、相当の期間を要するものと考えている。下荒井のえんてい等の問題もあり慎重に具体的に進めていきたい。現在の計画では48、49年度の2年間で調査をしたいという県の意向である。今後皆さん方とも十分ご相談をして50年度には着工できるよう努力していきたい。維持管理の問題については市が管理するということが至難であると思う。受益者である土地改良組合が主体となって維持管理していくのが原則であると考えている。もちろん市は十分指導監督していかなければならないと思っている。

**真名川ダム完成後の観光開発
をどのように考えているか？**

問 真名川ダムが完成した場合、観光客が多く訪れることは間違いのないところであるが、これに対応する公共施設の設

置等についてどのように考えているのか伺いたい。

答 具体的な計画はもっていない。今後建設省とも十分協議をして開発方法、場所等について具体的に打ち合せをして、人造湖を生かした観光開発を考えていきたい。

問 これに関連して山岳観光を取り入れていくべきと考える。すなわちダム周辺から荒島へ通ずる広域基幹林道を実施していくべきと思うが。

答 この山岳観光を十分取り入れていく必要があると考えている。現在いろいろと検討しているのは和泉村が下山の方から林道でやってきているので、これとモッカの林道というものを組み合わせていくのが一番良い方法ではないかと考えている。しかし国の基準があり、なかなか採択されないという非常に困難な情勢にあり、いつから着工するかについては明示は難しい。しかしながら観光と自然保護の観点から林道の開発を積極的に進めていきたい。



50年度完成を目指す真名川ダム

**第2の県立自然公園の企画は
大野市、池田町、今立町が協同で**

問 大野市・池田町・今立町が協同で県立自然公園を企画し、観光開発を進めていく考えであるのかどうか。

答 将来の観光開発を考えていくうえにおいて大野市の美しい自然を残していくことが基本であり、現在六呂師・荒島を中心とした県立自然公園があるが、さらに宝慶寺、銀杏峯、へこ山から池田町・今立町にまたがる県立自然公園を設定してはどうかということで、現在事務的な打ち合せを進めている段階である。試案を得た段階で十分地元の関係者と協議を

して、第二の自然公園を設定し、資源を守り、また観光にも有利に展開するような方向で考えていきたい。

**基盤整備事業の進行状況は
49年の作付けに支障はないか**

問 現在各地で行われている基盤整備事業が大変遅れていると聞いているが、49年の作付けに支障がないか、また当初計画した事業が資材等の高騰により事業費が非常に少なくなったと聞いているが、予定通り完成するのかどうか伺いたい。

答 ご指摘の件については、本年度特に国において8%の公共事業等を含めた繰り延べを指示してきていることから、非常に予算が窮屈になってきている。そのため土地改良の関係の皆さんと極力陳情した結果、団体営については大体私どもが考えている事業の総わくは取れたという考え方であるが、雪の関係、資材の入手に支障がなければ予算面ではまずまずのところまで実施できる見通しである。県営については相当予算が不足している49年度の予算を削減しなければ本年度の事業は完成されないという予想である。従って4月に一部発注をせざるを得ないような状況である。しかし果たして5月中にできるかどうか非常に困難な状態である。県・土地改良ともども全力をあげて49年の作付けに支障のないよう努力していきたい。

**六間通りから国鉄の裏へ通ずる
道路全く進展の兆しなし……**

問 以前の議会でも問題になったことのある、六間通りから国鉄の裏へ通ずる道路の問題について、先般の公聴会の席でも意見が出されたが、進展の兆しもないまま今日に至っている。現在この問題についてどのように考えているのか。

答 ご指摘の道路新設については多年の要望であるが、架橋にするか地下道にするか二つの方法があると思っている。いずれも一長一短があり、架橋の場合には果たして利用者がどれだけあるか、また冬期間の降雪についても考えて建設していく必要があり、地下道にすれば多額の経費がかかるという状況である。

問 ただ今の答弁は目下考えているとい

うことであるが、時代は刻々と移り変わっていくことを考えた場合、市は期成同盟会のようなものを設けて、官民一体となって運動を進めていくべきと考えるが。

答 具体的な調査をして努力していきたいと考えている。



問題の国鉄越前大野駅前



石油危機による社会情勢の下

振興計画どおり実施されるか

手直しをしていく考えがあるのか

問 最近の石油危機に伴う諸物価の急激な高騰の中で、今後市が計画している振興計画について手直し、あるいは変更する考えがあるのか伺いたい。

答 現在の社会情勢が今後どのように変わっていくか、今日の段階では予想し得ない状況である。従って基本計画を手直しするということについては現在言明し得ないところである。ただ予想されることは、基本構想・基本計画を大幅に修正することはあり得ないとしても、3カ年ごとの振興計画はスローダウンしなければならないと考えている。

問 明年度の予算編成において、実施計画にうたわれている内容のとおり、果たして実施できるのかどうかお尋ねしたい。

答 明年の予算編成は相当困難であると思っている。事業が果たしてどれだけ

**県道大谷・秋生・大野線の改良
観光道路として早期実現を**

問 県道大谷・秋生・大野線の改良・舗装については以前より県に対して強く陳情してきたのであるが、なんらの進展もないまま今日に至っている。この道路は大野旧西谷を通り、和泉村を通る一日観光道路として全く意義のある道路であり一日も早く改良・舗装されるよう県に対して要望すべきと考えるが。

答 現在調査によると、伊勢峠を中心にして47年度800万円、48年度500万円の投資をして県道の整備を実施している。また九頭竜ダムの周辺箱ヶ瀬橋から防災工事と舗装工事の二つを進めており、防災工事については3,000万円、舗装工事については1,500万円を本年度施行しているという状況である。今後われわれとしても早くこれが循環をして観光開発の一貫につながるように、またこれが公共事業に取り入れてもらえるように努力していかなければならないと考えている。

きるか予想し得ないところである。従って総体的に抑制型にして消費的経費を極力抑制し、建設的な経費を多く確保する編成の仕方をしていく必要がある。振興計画にうたわれている内容については、国の抑制とからみ、補助事業に一体どれだけの伸びがあるのか今日の段階では難しい情勢にあるので、骨格的な予算編成を行い、6月の定例会において安定したところで肉付けをしていくのが至当と考えている。そのため財政を調整できる資金を極力確保し、情勢に対応できるような予算編成を行っていきたい。

**一定例市議会は毎年3月・6月・9月・12月です
市民の皆さん 傍聴いたしましょう**

1 月 臨 時 市 議 会

大野市環境保全条例を提案
継続審査となる

— 1 議案を承認 —

第143回大野市臨時市議会は1月16日開会され、会期を1日限りと定め、理事者から提出の2議案について審議いたしました。その結果議案第1号大野市環境保全条例の制定については総務委員会に付託をして、慎重に審議しなければならないことから継続審査といたしました。議案第2号専決処分の承認を求めることについては、原案とおりに承認しました。本会議での主な質疑応答は次のとおりであります。

大野市環境保全都市宣言決議
との関連性について

問 昭和47年6月定例会市議会において「大野市環境保全都市宣言」を決議したがこの宣言内容と今回提案した条例をどのように関連して考えているのか。また条例案を作成する過程でこの関連性について話題になったかどうか。

答 決議された宣言内容には自然環境と社会環境の二つの面がうたわれていると思うが、この条例案は自然環境の保護を主としているので、社会環境的なものは取り入れていない。従って社会環境の浄化という面については、多くは審議されておらない。

問 議会で決議されたものは理事者も受けとめ、社会環境の浄化についても十分反映していただきたいと思うが。

答 われわれとしてもそれを受けて長い間資料を収集し、公害対策審議会にも諮問して、そして成案を得て具体化したものが今回の条例となったというようにご理解を願いたい。なお不備な点もあろうかと思われるので、十分議会側においても審議願いたいと思っている。

都市計画事業の遂行と

大野市環境保全条例の関連

問 都市計画事業が年次計画のもとに実施されていく訳であるが、自然を破壊する事態が起きた場合、この条例の中で都市計画事業の遂行をどのように関連して考えていくのか。

答 自然環境を保全するという意味は、快適に生活できる良好な環境が自然環境だと考えている。従って必ずしも、全然開発せずに天然のままの自然を保護することが唯一の自然環境の保全であるとい

う考え方は、解釈の意味が非常に狭くなってくると考えられる。やはり市が計画した都市計画事業については遂行していかなければならないと思っている。しかしながら大野市が決めている市街化区域その外部に広がる農村振興地域、山村振興を今後どのようにして開発していくかその場合に自然保護と環境保全をどう調整していくか考えていく必要があると思う。

公害防止の施設設置・改善に

低利資金の融資あっせんを答弁
助成は現段階では考えていない

問 この条例案の中に騒音等の規制がうたわれているが、公害防止のための施設の設置及び改善を行った場合、市はその要した費用について助成していく考えがあるのか。勝山市では助成しているが。

答 騒音の規制については「騒音規制法」により、昭和50年の5月までに騒音規制に合致するような施設の改善を、好むと好まざるにかかわらずやらなければならないと定められている。従ってこれから

の企業は、事業者自らの手において公害を出さないようにしていかなければならない。助成をするかどうかについては現在は考えていない。しかし市としても49年度においてはさらに融資のわくを拡大して低利の資金をあっせんをするということ而努力していきたい。

問 条例案中第13条に「事業者が行う公害を防止するための施設の設置、または改善につき必要な資金のあっせん、技術的な助言その他の援助に努めなければならない」と定められているが、当然助成という問題が含まれていると解釈されるが。

答 ご指摘のとおりの内容がうたわれているが、必ずしも補助金を出すと、今後も絶対に出さないとかいう考え方を規定しているものではなく極めて弾力的な考え方である。これからの公害防止の設備、改善については資金のあっせんという方向が妥当な措置ではないかと思っている。市が利子補給をして、できる限り安い資金を活用できる方法を講じていくのが長続きする施策ではないか考えている。

委員会の活動

●教育民生委員会

一有終南小学校の敷地確保に

全力をあげて取り組み—

付託された議案3件、請願2件、陳情9件については、陳情1件を継続審査、2件を不採択とした外は可決・採択しました。

請願30号有終南小学校の改築については都市政策上からも、また通学区域再編からも現在の位置は不相当であるという観点から、移転という方向で考えていくと言われてきたが、この敷地確保についてなら進展もないまま今日の事態になったことは誠に憂慮すべき問題である加えて仮称東小学校の建設予定地も決まり、通学区域については今なお旧町村区域のままであり、学校適正規模化を進める上からも早急に敷地確保について積極的に取り組まれるよう強く要請した。

陳情 6 号福井県スモンの会への助成については全国にわたる重大な問題であり、その措置が国においてなされるべきが至当と思われ、今後市長会等において十分審議し国に働きかけを要望することとし不採択。陳情11号西里区からの幼児保育所建設については、南部保育所の建設に関連して考慮するという事で不採択とした。

●建設委員会

一 駅東公園の設計には

地域住民との話し合いを

付託された議案 2 件、請願 3 件、陳情 6 件については、陳情 1 件を不採択とした外は可決・採択しました。

審議の過程で問題となった点は、駅東公園の設計については、これら計画について事前に地域住民との話し合いの場をもたれ、相互理解のもとに施行されるよう要請した。駅東第 2 土地区画整理事業への援助については、当保留地内に仮称東小学校の用地をはじめとする公共用地が数多くあるが、これらを十分勘案せら

れ早急に具体的な施策を講じられるよう要望した。

●産業経済委員会

一 特殊林産物振興補助について

指導、監査をし健全な育成を

付託された議案 2 件、請願 2 件、陳情 1 件については、それぞれ可決・採択しました。

審議の過程において問題となった点は特殊林産物振興補助である。その内容は越前大野特殊林産物加工農業協同組合の負債に対する利子補給であり、これは今後も続けられる見込みであるといわれるが、果たしてこの組合が今後盛り立てていく意欲があるのかどうか。組合のいろいろな問題を追及してみるとはなはだ疑問でありなんらかの方法を講じない限り経営困難と推察されるのである。今後理事者においてはその指導、監査、監督を十分行い健全なる育成を図るよう強く要請した。

請願33号市内国道 157号バイパスの国鉄バス運行については市民の最も熱望す

るところであり、これらの実現に当たっては私鉄路線との関係もあり、コースの選定を検討せられるとともに、上部に陳情する時点において、市当局のみならず関係機関の総力を結集し、他の路線の肩代わりとならないよう十分の配慮を要請し採択とした。

●総務委員会

一 ごみ焼却場を現地で建設

反対陳情継続審査

付託された議案 4 件、請願 1 件、陳情 3 件については、それぞれ可決・採択しました。

陳情32号消火栓設備設置費用の補助金交付申請については、内容検討の上、応分の措置をされるよう、採択とした。陳情30号及び陳情36号は、ごみ焼却場を現地に建設することの反対陳情であるがごみ焼却場の建設については目下理事者において鋭意努力中であり、また広域行政事務組合との関連から継続審査とした。

請 願 ・ 陳 情

9 月定例市議会で継続審査となった陳情 5 件、12 月定例市議会で新しく提出された請願・陳情 23 件は、各委員会で審査され委員長から本会議に報告して、次のように決定しました。

採択したもの

- 日吉神社前お堀の湧水装置について
加藤庄松外 32 名
- 漁業組合事業に対する助成について
大野市漁業協同組合理事長 宮田 準
- 有終南小学校の改築について
有終南小学校改築促進期成同盟会
会長 桑野和夫外 2 名
- 市道の舗装について
上黒谷区長 吉田八三エ門外 1 区長
- 市社会体育施設の早期建設について
大野市体育協会々長 林 達也外 6 名
- 市内国道 157 号線バイパスに国鉄バスの循環運行について
奥越輸送力協議会
会長 高田新左エ門外代表者 34 名
- 市道の改良・舗装について
井ノ口区長 田中 昇外 3 区長

- 郵便配達廃止決議について
中森信一外 505 名
- 河川の改修について
高砂町 3 区々長 森本金太郎外 60 名
- 市道の舗装について
下唯野区長 細川 勉外 3 名
- 消火栓設備設置費用の補助金交付について
下唯野区長 細川 勉外 3 名
- 市道下唯野学校道路の舗装について
蕨生小学校 P T A 会長 瀬先長助外 6 名
- 乾側小学校々舎早期改築について
乾側小学校々舎改築期成同盟会
P T A 会長 西川文人外 18 名
- 学校設備危険箇所補修について
大野市四校 P T A 連絡会
開成中 P T A 会長 小原藤雄外 3 会長
- 大野市自動車整備協同組合に対する助成金の交付について
大野自動車整備協同組合
理事長 高岡重夫
- 善導寺川錦鯉放流の協力援助について
大野市区長会長 桑野和夫外 11 名
- 尚徳中学校グラウンドの整備について
尚徳中学校 P T A 会長 松田庄二
- 阪谷橋 (県道南六呂師～大野線) の拡幅、又は新設について
阪谷地区々長会々長 多田双太外 3 名

- 陽明中学校の施設、整備拡充について
大野市陽明中学校 P T A 会長 松田桂介
- 社会教育関係団体への補助金増額について
大野市青年団体連絡協議会
会長 菅見悦郎外 2 団体長
- 新庄一東中線の早期着工について
開成中 P T A 会長 小原藤雄外 21 名
- 県薬剤師会館・公衆衛生研究所建設費の助成について
福井県薬剤師会々長 片岡泰蔵
- 継続審査となったもの
- ごみ焼却場の建設について
土布子 松本一男外 33 名
- ごみ焼却場の建設について
勝山市遅羽町下荒井区
代表者 斉藤吉業外 3 名
- 教職員の待遇改善について
大野市教職員組合執行委員長 羽田義任
- 不採択となったもの
- 福井県スモンの会への助成について
福井県スモンの会々長 田中茂外 49 名
- 幼児保育所の建設について
西里町区長 若山秋俊外 93 名
- 損害補償要求について
有限会社 十合織物工場
代表取締役 長瀬 正